



社会福祉法人江東楓の会 編集責任者
発行所 江東区東砂 6-2-14-3F

理事長 伊藤 善彦
TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

理事長あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 理事長 伊藤 善彦

日頃より当法人の運営にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

令和2年度決算を終え、令和3年度を迎えることができました。また、6月に役員改選を迎え3期目の理事長を拝命することになりました。引き続き法人理念の実現に向け、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。

さて、令和3年4月より指定管理施設 江東区あすなろ作業所 の運営を担うこととなりました。利用者・ご家族にご協力いただき、日々の作業や活動を行っております。利用される利用者・ご家族の心配はもちろんあると思ひますが、誠実に一步一步進めていき、一日も早く安心していただける施設運営を目指します。また運営法人変更に伴い丁寧な引継ぎを行ってくださった（社福）東京都手をつなぐ育成会の職員の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

今年度に入っても新型コロナの影響は大きく、感染対策は引き続きしっかりと取り組んでいかなければならないと感じています。同時にこういう状況だからこそ利用者の方が楽しめる活動が提供できるように一層支援に取り組んでいきたいと思ひます。

ワクチン接種が始まりましたが一日も早くこの状況が改善されることに期待したいと思ひます。



第 46 回会報テーマは全事業所



『近況報告』とさせていただきます

共同生活援助かえで 管理者 仲俣 圭

早いもので今年ももう 6 月半ばを迎えます。楓ビル近くの横十間川親水公園の樹々も、より一層青々としています。梅雨はまだか?とっていると、すぐ夏本番とばかりに猛暑がやってきそうです。

共同生活援助かえでは、コロナや蒸し暑さにも負けず利用者皆元気に過ごしています。とはいえ、なかなか外出できないこともありコロナ太りが心配されるところでもあります。

また利用者からは、『コロナが終わったら、〇〇したいね』『カラオケに行きたい』『ボーリングに行きたい』などなど…声が聞こえます。息抜きしたい気持ちはと一つでも共感できます。が、それでもグループホームが集団生活の場である以上、世話人として感染リスクのある行動に対しては、最大限の注意を払っていかなければなりません。結果として利用者の意向に沿えないこともしばしばあります。そんな中でもコロナ対策をしっかり守っている利用者の姿を見るにつけ、頭が下がる思いです。

本当に一日も早くコロナ禍が過ぎ、もとの平穏な生活が来ることを願ってやみません。その日まで、利用者・世話人共にグループホームかえで一丸となって、“うがい・手洗い・マスク・消毒・換気”を合言葉に日々を過ごしていきたいと思います。



江東区リバーハウス東砂 支援員 丸山 裕輔

4 月の定期異動で、第三あすなる作業所からリバーハウス東砂に異動してきました。入浴介助、食事介助、排泄介助、夜勤等、作業所では経験のないことが多く、不安を抱えての異動でした。

しかし、異動後業務に携わってみると、周囲のサポートもあり不安なく取り組むことができています。

利用者さんとの関係についても、皆さん笑顔で迎え入れてくれ、話しかけてくれました。おかげで、私自身もスムーズに支援に入ることができました。

併せて、ショートステイで来られる、利用者さんとの関りも楽しみなことになってきています。異動当初は初めて会うショートステイの利用者さんに対して不安が勝っていましたが、こちらについても、利用者さんとの関りを楽しめるように気持ちのゆとりを持てるようになってきたように感じています。今後も色々な利用者との関りを楽しみながら勤務に携わっていきたいと思います。

現在、新型コロナウイルスの影響で利用を差し控えている方も多くいると思いますが、状況が落ち着いてきたら、また多くの方に、リバーハウスを利用していただき、新たな出会いがあることを楽しみにしています。

高齢障害者通所施設さくら 支援員 瀬尾かおる

新型コロナウイルスの流行から早1年半、年中問わず、外出時のマスク着用や消毒、また外出の制限などその他多くの日常は、私たちを取り巻く環境において大きく変化しました。

そんな中、私自身は4月に第三あすなろ作業所からさくら分室に異動になり、数ヶ月が経過しました。

個人的には、パンが大好きで、少しくらい遠くても美味しそうなパン屋を探しては、出掛けることもありました。そんな食べる専門だった自分が、パン製造に関わるとは全く考えていませんでした。第三あすなろ作業所では、主に製造業務に携わっていましたが、同じ製造業務とはいえ、扱っている商品が全く違うため、自分に出来るのか、新しいことが覚えられるのかという不安がありました。

実際、パン作りをやってみると、想像していた以上に何十倍も難しいのです。慣れないため仕方ないのですが、のんびり成形しているとその間にどんどん発酵していきまますし、熟練度によって違う生地成形のスピード、見た目、焼く前の温め（発酵）のタイミングの見極め等、数々の技術と積み重ねていくことでの経験や、感覚で覚えていくしかないことがほとんどで非常に大変さは感じています。しかし、不思議なことに新しいことを覚えていくことに不安や辛さはなく、むしろ今までの経験が生かされていることや、一つずつ出来るが増えることで、達成感や新しい視野が広がっていることを実感しています。

また、さくら分室の利用者は、パン作りに対する熱意や自信を持って取り組んでおり、何より楽しくお互いが協力しあっている姿を見ていると、自分も負けずに頑張らなければ、と思わせてくれるのだと思います。

今では、買い物に入った店の中にあるパン屋のパン生地や形状、具材の種類、見た目など今までとは違った目線でパンを真剣に見てしまいます。新型コロナが早く収束し、また新しい美味しいパン屋さんめぐりが出来るのを楽しみに、今は我慢をしようと思っています。

分室でまだまだスタートしたばかりですが、利用者と一緒に楽しく安全で美味しいパン作りに励むとともに、利用者がさらに出来るが増え、より自信に繋がるような支援に努めていきたいと思っています。



ワークセンターつばさ 支援員 富樫 友春

皆様こんにちは、今年度4月より若竹作業所からワークセンターつばさへ異動となりました富樫 友春と申します。新天地での勤務から早2か月が過ぎました。つばさでは就労移行の利用者の方が、5月末より企業へ就職されることとなりました。私自身としては2か月弱の関わりでしたが、元気な笑顔が印象的な方でした。

私自身の近況報告としては働く場所が変わったことが大きなことでした。変わらない事といえば若竹からつばさへの異動となっても支援員シップあふれる素敵な仲間に出会っているという事です。利用者対応はもちろん事務処理などの支援員としてのクオリティを先輩方から吸収するべきなのですが、社会人スタートの遅かった私としてはいまだに慣れていくのは難しいと感じています。ウィークポイントを吐露させて頂きましたが、その中で対人関係において必要とされる挨拶や謝罪などは心の仕草として備わっていると自負しています。今後もそのような強みを生かして支援活動に携わらせて頂ければと考えています。



若竹作業所 支援係長 伊藤 隆行

今年度がスタートしてまもなく、新型コロナウイルス感染症拡大により、まん延防止等の重点措置が適用され、その後、3度目となる緊急事態宣言が発令されました。

コロナ禍で必要以上に暗い話題が耳に入ってきてしまいそうですが、白血病から復帰した競泳女子、池江璃花子選手が日本選手権で3年ぶりに優勝したことや男子ゴルフの松山英樹選手がマスターズで優勝し日本男子初のメジャー大会を制覇したなど明るいニュースもありました。

若竹作業所では、職員の異動等がありましたが、利用者は変わりなく新年度がスタートし、感染防止の為、マスクの着用、手指消毒、換気等を引き続き継続しながら過ごしています。そんな中、5月、6月と新しい利用者の方が入所され若竹作業所は現在52名の利用者の方が在籍しています。

若竹作業所内で行っている作業は、封入や丁合等の室内での作業や小学校や幼稚園等で給食に使用される食材を入れるバットを洗うベランダでの作業などを行っています。その他にも河川敷の清掃や江東区清掃事務所から折りたたみコンテナを受け取り、洗浄する作業も行っています。

今年度も7月に予定していたバスハイクの中止など行事等が行えない状況ですが、数人のグループを作り、お昼に好みの食事を購入して食べるランチ外出の企画や、金曜日の余暇活動で新たに絵画を取り入れるなど楽しみを少しでも取り入れられればと思います。また、今年度から親子バスハイクの行事を取り止め、少人数で希望の場所へ外出する小グループ外出を行事として行っていく予定でおすすめしています。

コロナ禍でも作業や休み時間、余暇の時間など利用者の方々と関わる機会を大切にしながら今後も楽しんで過ごせる時間が増えるようにして行ければと思います。

今年度も若竹作業所をよろしくお願い致します。

楓の会ヘルパーセンター 職員 萩原 洋

日に日に暑さが増し、夏目前といった季節となり、いよいよ始まろうとしているスポーツの祭典、TOKYO2020 が待ち遠しくなってきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、最近の楓の会ヘルパーセンターは、このコロナ禍でも利用者の生活を維持するため、ヘルパー及び職員ともども、できる限りサービス提供に努め、日々奮闘しております。

先日、ヘルパーセンターの中でも感染症の知識を再確認する意味も込めて、研修会は難しかったので、課題という形でレポートをヘルパーの皆さんに提出して頂きました。これからの支援について考えてもらうとても良い機会となりました。

この知識を生かし、今後も利用者一人ひとりに寄り添ったヘルパーセンターであり続けたいと思います。皆様これからも楓の会ヘルパーセンターへのご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。

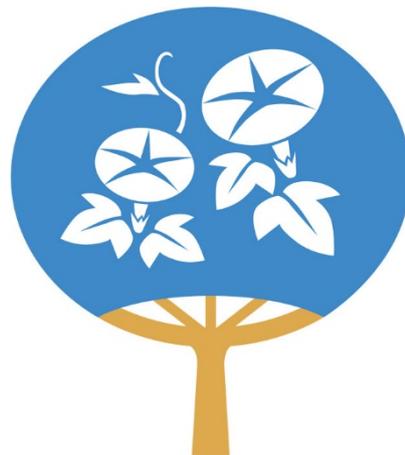


江東区あすなろ作業所 支援係長 竹田 祐樹

運営法人の変更で令和3年度4月より「江東楓の会 江東区あすなろ作業所」がスタートしました。現在、利用者48名、職員17名（相談員含む）で運営しています。

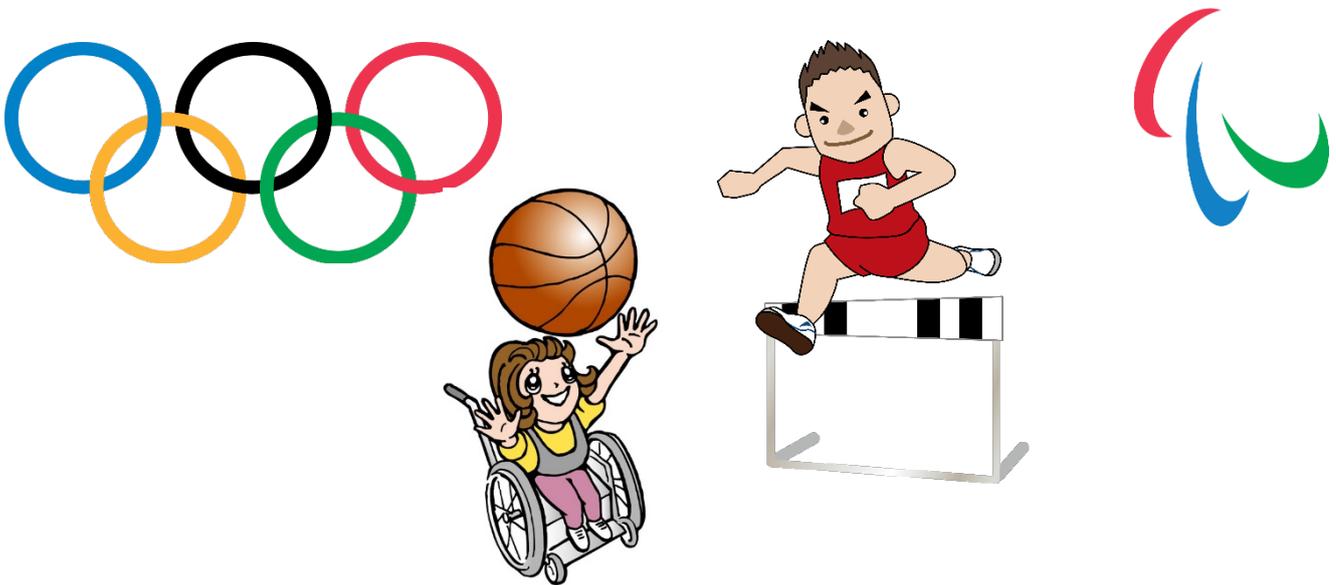
利用者の皆さんのおかげで作業に関しても、順調に進めることが出来ています。あすなろ作業所では、品川商工という電気工事などに使われる絶縁キャップ（電流を遮断するキャップ）を指定された数ごとの封入する作業をメインに受注作業を行っています。他に、和菓子などで有名な榮太樓総本舗の飴玉の封入や歯科材の試供品、リーフレットの封入なども取組んでいます。どの作業も利用者の皆さんは、長く携わっている作業でとてもスムーズで丁寧に行っています。また、職員にもやり方などレクチャーしてくれるほどです。

6月より、自主生産品の雑巾を再開しました。高齢障害者通所施設さくらの利用者の方々にもタオルを雑巾仕様に縫う作業をお願いし、協力していただいています。さくらで縫ってもらった雑巾にあすなろの利用者の方々が刺繍し、るーくるで販売しています。とても味のある素敵な商品になっています。どうぞよろしくお願いいたします。



江東区亀戸福祉園 支援係長 興水 康弘

令和3年度が新たにスタートし、新規利用者1名、新任職員5名が加わりました。入園式は、新型コロナウイルスの感染予防として、所属グループでの実施となりましたが、少人数ならではの和やかな雰囲気の中で執り行うことができました。緊急事態宣言の延長もあり、6月に開催予定だった「園祭」を中止とさせていただきました。「With コロナ」の中でも利用者の皆さんにより良いサービス提供ができるように、日々検討していきたいと考えています。また、オリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、「夢と・希望と・平和」を与えてくれる祭典で楽しみな方、不安な方もいると思いますがせつかくなら楽しみたいですね。開催されると、人流は増えると予想されます。事業所においては、引き続き利用者の安全・安心を基盤とした運営ができるように努めていきたいと考えています。



第三あすなろ作業所 支援員 矢倉 大雅

4月に新卒で第三あすなろ作業所へ配属となりました。昨年に引き続き、猛威を振るう新型コロナウイルスと向き合う中でのスタートとなりました。利用者さんとコミュニケーションを取ったり、作業を覚えたりしているうちにあっという間に2ヶ月が経過していました。

利用者さんと関わる中で作業内容を教えていただくほか、週明けには「週末はいかがでしたか？」と言う私の問いかけに「買い物に行ってきたよ！矢倉さんは何してたの？」と嬉しそうに返してくださったり、金曜日には「週末ゆっくり休んでください！また来週もよろしくお願いします」といった温かい言葉をいただくなど、利用者さんとの関わりを通して、自分自身毎日楽しく過ごすことができています。

お祭りや小グループ活動が昨年に引き続き中止となり、利用者さんにとって楽しみが少ない状態が続いています。こうした先行きの見えない状況下でも、不慣れな私に毎日笑顔を見せてくれる利用者さんたちと少しでも楽しい時間を作っていくために、日頃からの感染防止対策の徹底に努めながら、皆さんが安心して通所できるように取り組んでいきたいと思っています。

楓の会平令和2年度決算報告

楓の会の理事会・評議員会が開催され、令和2年度決算が承認されました。

貸借対照表

単位千円

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	330,158	流動負債	240,297
基本財産	10,000	固定負債	43,133
その他の固定資産	159,756		
		負債の部合計	283,430
		純資産の部	
		基本金	20,500
		国庫補助金特別積立金	2,797
		その他の積立金	95,948
		次期繰越活動収支差額	97,239
		純資産の部合計	216,484
資産の部合計	499,914	負債及び純資産の部合計	499,914

資金収支計算書

事業活動計算書

単位千円

単位千円

事業活動収入	822,093
事業活動支出	815,770
差引事業活動収支差額	6,323
施設整備等収入	2,769
施設整備等支出	3,002
差引施設整備等収支差額	△ 233
その他の活動収入	25,226
その他の活動支出	28,402
差引その他の活動収支差額	△ 3,176
当期収支差額	2,914
前期末資金支払残高	104,790
当期末資金支払残高	107,704

サービス活動収益	807,261
サービス活動費用	820,650
差引サービス活動収支差額	△ 13,389
サービス活動外収益	14,831
サービス活動外費用	6,029
差引サービス活動外収支差額	8,802
特別増減収益	6,769
特別増減費用	6,984
差引特別増減収支差額	△ 215
当期活動収支差額	△ 4,802
前期繰越活動収支差額	101,391
その他の積立金取崩額	19,650
その他の積立金積立額	19,000
次期繰越活動収支差額	97,239

※なお千円以下記載省略のため差異あり

第 16 期楓の会後援会収支報告

下記のとおり第 16 期楓の会後援会の収支報告を致しました。

収入の部		
前期繰越	55,331	
後援会会費	523,000	
寄付	800,000	
受取利息	3	1,378,334

支出の部		
会報用紙代	4,117	
未払 会報用紙代	1,443	
振込手数料	14,307	
郵送代・会報発送代	10,768	
未払 郵送代	3,864	
総会飲食代	0	34,499

収支差額		1,343,835
------	--	-----------

これを次のように精算します。

楓の会への寄付金	1,300,000
次期繰越金	43,835

令和 3 年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第45号からつづく)

井口 智也 井口 晴美

(敬称略、順不同)

(なお、令和 3 年 6 月 15 日以降 賛助会員は次号につづく)

ご寄付

ご寄付を賜り誠にありがとうございました

- 梶川 勝美 様
- 匿名希望 6 名 (団体含む)

厚く御礼申し上げます

ご寄付いただいたものは、法人の事業に使わせて頂いております

編集後記

会員の皆様には日頃より当法人の運営に関しまして、ご理解ご協力を賜り、誠に有難うございます。

今号におきましては各事業所の近況報告をさせていただきました。

新型コロナウイルスが流行し始め一年以上経ちましたが、未だに予断を許さない状況は続いております。そんな中で各事業所の近況報告を読んでもみると、前向きに、明るく生活しようという気持ちが見て取れます。

また皆様のもとにもワクチンが届き始め、明るい兆しも見え始めているのではないのでしょうか。

気持ち明るく、晴れやかにこの夏を過ごしていきたいですね！

